

会報

善哉

令和3年9月1日 第53号



白笹稲荷神社拝殿の天井絵

後藤芳世画伯が平成23年までの7年の歳月をかけて描き上げた。

秦野歴史おこしの会



新たな観光の拠点を目指す

「ヤビツ峠」の歴史をひも解く

ヤビツ峠レストハウス運営
丹沢MON合同会社

弁護士 平 野 義 耀

表丹沢の観光資源を生かした町おこしに秦野市は力を入れています。本年三月二十八日にオープンした「ヤビツ峠レストハウス」はそのひとつです。

ところで、「ヤビツ峠」という名前は、地図やガイドブックを見ても片仮名です。漢字の表記はお目にかかったことがあります。漢字では恐らく「矢櫃」となると思います。それは弓矢の矢を入れる武器の一種です。明治の末期、峠道の改修工事中に地中から矢櫃が見つかったことから、「ヤビツ峠」の名前が付いたのです。そこは、現在のヤビツ峠の西方約五百メートルの所「二又の峰」と「岳の台」との鞍部に当たります（旧ヤビツ峠）。

大山から塔ノ岳までの東丹沢は幕府の領でしたが、明治になって国有地となり、その半分を天皇の財産としました。幕府の時代は、「お留山」で、立ち入ることと樹木の伐採は禁止。特に樫の木は切ると首がとびました。旧煤ヶ谷村、秦野市の寺山村、田原村などに命じ、御林荒しを取り締まっていました。村人二名が交替で山を見回り、その証の札を現在の札掛にあった大樫に掛けました。そこから「札掛」の地名が付いたのです。

また、ヤビツ峠から札掛の途中に「諸戸」という所があります。これは明治二十九年に寺山の入会地を紀州の林業者諸戸清六が買って植林をしました。ここの檜は歌舞伎座の舞台に使用されています。

ところで、今のヤビツ峠は昭和九年に開通し、丹沢林道と呼ばれ、現在は県道七〇号線となっています。

永禄十二年、愛甲郡にある三増峠で武田信玄と北条氏照の合戦がありました。史実に有名な三増峠の合戦です。

ここでは北条が敗れました。同じ時に別動隊の合戦が旧ヤビツ峠付近で行われました。青山荘がある所は「門戸口2（モンドグチ）」と呼ばれていて、ここ

には北条の砦がありました。ヤビツ峠の戦いは北条の待ち伏せで激戦となり、武田勢は散々に打ち破られました。ヤビツ峠は武田の亡霊が餓鬼になって彷徨っているともいわれ「餓鬼道」の名も残っています。

私が子供の頃、山好きの叔父から、ヤビツ峠に来ると必ず「ヒムシ」の話を聞きました。これは登山中に急に空腹になって歩けなくなる症状です。これを「ヒダル神に憑かれる」と言います。全国にある伝説です。山での「シヤリバテ」の症状です。

巻頭言に引き続いて

「戦国期以降の東丹沢のこと」

平野義燿

巻頭言では「ヤビツ峠」の由来について述べましたが、戦国期以降の東丹沢について、もう少し詳しく話をしたいと思います。

（戦国期の東丹沢）

丹沢山塊は、神奈川県面積の約六分の一を占めています。そして戦国期には丹沢は小田原北条氏の領地と甲斐武田氏の領地の国境で、山は屏風の役割をしていました。

・三増峠の戦いとヤビツ峠の戦い
現在残っている戦国期の戦いの記録は勝者の記録であり、敗者については記録はほとんど残っていません。ヤビツ峠の戦いもそうです。

まず、三増峠の戦いについてこれを見てみます。永禄十二年（一五六九年）、武田信玄と勝頼は小田原城を囲んでいましたが、北条氏康の籠城作戦により、武田勢は兵糧も尽きたので甲斐へ引き上げることにしました。勝頼は自ら殿軍となり、平塚より相模川沿いに北上、厚木から愛甲郡の三増峠を退路としま

した。この時、北条氏康は信玄をこの峠で追討しようと考えました。この事実を北条方の捕虜の一人杉谷金太夫なるものが信玄に白状してしまいました。それは北条氏康の二男氏照を大将として二万の軍勢で追討しようという計画だったのです。信玄は捕虜から追討の話を聞いたことから、逆に北条の軍勢を三増峠で迎え討とうと準備をしました。それは永禄十二年（一五六九年）十月上旬でした。信玄は出来る限り北条勢を三増峠の山間におびき寄せて討とうという作戦でした。北条方は、三増峠では信玄の「皮を切らせて肉を切り、肉を切らせて骨を断つ」式の作戦にあい総崩れとなりました。信玄は現在の相模湖付近を通って中央線沿いに甲府へ引き上げました。

武田の小田原攻めに係わる史跡として、西丹沢の犬越路や城ヶ尾峠などがあります。いずれも甲州と相模の境にある地名です。犬越路は信玄が犬の先導で越えたという言い伝えからそう呼ばれるようになったと言われています。また、犬越路から用木沢（ヨーケザワ）を下り、その先にある中川温泉には「信玄の隠し湯」と呼ばれている温泉もあります。私が中学生の頃、山好きの叔父に連れられて西丹沢に來ると中川の

河原に葦簀（ヨシズ）張りの温泉が湧いていました。温（ヌル）いお湯でした。有料だったか無料だったかは覚えていません。ここは傷ついた武田の武士の療養の場であるとともに、北条軍の捕虜収容所もあったと言い伝えられています。また、付近には信玄平などの地名も残っています。ところで前述の三増峠の麓には合戦状況を説明した立派な石碑があります。また、三増峠には合戦の際に信玄が旗指物を掛けたといわれている「信玄旗差の松」があります。但し、その松はとくに枯れてしまい、今は直径三〇センチメートル位の松で、私が十年位前に訪れた時には「信玄旗立の松」と書かれた小さな看板が立っていました。

次にヤビツ峠の戦いについてみると、正式の記録は全く残存していません。前述のとおり、ここでは武田が敗れたからかもしれませんが、唯一、私が文献で見たのは、山の漫画などを書いている「とよた時（とき）」氏の「丹沢・山のものがたり」という本です（山と溪谷社 平成十年十月一日発行）。それによると、「永禄十二年（一五六九年）ここ（旧ヤビツ峠）に差し掛かった武田勢は北条方の待ち伏せに会い、おまけに忍んでいた北条方の伏兵との激戦で

散々に打ち破られた」といいます。「その時のものか、明治末期に峠道（旧ヤビツ峠）を修復工事中、矢を入れて背負う矢櫃が見つかったことからヤビツ峠の名が付いた」とされています。これをみると、同じ永禄十二年のことであり、三増峠の合戦と同じ時期であったことから、そして矢櫃が出土した事実を考え合わせると、別動隊によるヤビツ峠の合戦はやはり行われたものと考えられます。三増峠の合戦の際も、三増峠の南西約一キロメートルのところにある志田峠において、両軍の別動隊の激しい合戦が行われました。これは武田勢が勝っているので記録に残っています。東丹沢の山々が前述のとおり屏風の役割を果たしていたことから、これを越す峠は合戦の場になった訳です。

・旧ヤビツ峠と「ヒムシ」の話

旧ヤビツ峠は武田の別動隊が敗れたことから、武田方の亡霊が餓鬼となつて彷徨（サマヨ）つていと言われ、「餓鬼道（ガキミチ）」という別名もあります。そして付近には「地獄沢」などの地名もあります。ここには十五有位前までは神奈川県が「餓鬼道」と書いた案内板を設置していましたが、今は朽ちてしまいありません。復旧して



旧ヤビツ峠にあった餓鬼道の案内板
写真提供 秦野市 撮影 岩田傳三郎氏

ほしいと願っています。巻頭言に書いた「ヒムシ」のことをもう少しお話しします。私が小学一年生の八月に終戦となり、当時陸軍士官学校から復員してきた父の弟、平野博（当時二十歳）が山好きで、秦野山岳会（昭和八年結成）の会員でした。叔父は私を東丹沢の山や沢によく連れて行ってくれました。ヤビツ峠に行くときは「握り飯を一個残しておけ、ヒムシが出るから」と、必ず言われました。ここに来ると「急に腹が減って歩けなくなるから、その時は握り飯を谷に向かって投げてから一目散に逃げろ」と言うのです。これは「ヒムシに憑かれた」現象です。

山の伝説や怪談によると、次のように書かれています。「旅人や登山者が人里離れた寂しい山や峠で、にわかに激しい空腹に襲われて動けなくなる『ヒダル神』の伝説」。「山に登る時は弁当を少しだけ残しておけ」という古い諺は、このヒダル神に憑かれたときのためなのです。「ヒダル神」の呼び名は、「ダル神」、「ヒモジイサマ」などと、地方によって異なっていますが、東日本では、「餓鬼に憑かれる」と言われています。餓鬼やヒダル神の正体は、「山や峠で行き倒れになった人たちの亡霊が、死後成仏できないで山中を彷徨い、通りがかった人にとり憑いて飢餓を訴えている現象」とされています。（「山の不可思議事件簿」村上信太郎著、山と溪谷社 二〇一五年十月十五日刊）

「ヒムシ」に憑かれた現象を科学的にみれば、登山中にエネルギーを使い果たして血糖値が下がり、歩けなくなる現象です。これをわれわれ山仲間には「シャリバテ」と呼んでいます。以前、私は弟と五月に北アルプス後立山連峰の爺ヶ岳の冷尾根（ツメタオネ）を登った時に、小冷沢（コツメタザワ）を詰めて急峻なルンゼ（狭い沢）から尾根に飛び出した所で、弟が急に「兄貴、腹が減って動けない、ちよっと休ませ

てくれ」と言つて倒れこんでしまいました。十分程も経つと「もう大丈夫だ」と言つて元氣を取り戻し、登頂しました。この現象は正に「ヒダル神（ヒムシ）」にとり憑かれた現象でした。

（徳川時代の東丹沢）

徳川家康が江戸に入ってきた時に丹沢を見て、江戸城や江戸の町を作るのにこの材木が必要だ、と考えました。そして「御留山」にしました。巻頭言で話したとおり、「札掛」という地名は、討伐を防ぐための山役人と煤ヶ谷と秦野の寺山、田原、羽根などの部落の村人が山を巡回したことから付いた地名です。ここにあった大樫は樹高約二十四メートル、目通り周囲六・四メートルあったと言われています。しかし昭和十二年（一九三七年）七月十四日の台風で傷つき枯死してしまいました。「御留山」は徳川幕府の直轄地です。丹沢六本といわれ、杉（スギ）、樺（ケヤキ）、榧（カヤ）、樅（モミ）、栂（ツガ）、栗（クリ）です。この六本は絶対に伐つてはいけないうと、伐採は厳しく禁止されていました。尚、西丹沢にも丹沢六本があります。杉（スギ）、檜（ヒノキ）、樅（モミ）、栂（ツガ）、樺（ケヤキ）、榧（ブナ）です。二種類が入れ替わっています。ここは徳川期の小田

原藩の御留山でした。小田原藩では建材利用よりも自然保護のための六種類の本を保護していたのです。

（明治以降の東丹沢）

明治維新により日本は近代国家に生まれ変わりました。そして明治六年（一八七三年）から地租改正を行っていました。地租改正では土地に地番をつけて等級を決めました。そして土地の所有者を決めたのです。また、地主（所有者）がはつきりしない土地、例えば道、川、山などは、全部国有地としてしまいました。このとき、幕府や藩領の「御留山」などは全部国有林（地）としました。そしてその半分を天皇の財産、いわゆる皇室財産としました。これは日本（北海道を除く）の総面積の約一割に当たります。天皇は日本一の地主となった訳です。ヨーロッパの貴族並みの地主です。その後、昭和六年十一月に神奈川県丹沢御下賜林が決定され、皇室財産は県に払い下げとなりました。これが現在の県有林です。

この時、東丹沢開発林道の工事が始まり、蓑毛から宮ヶ瀬間での現在の県道七〇号線が昭和九年に完成しました。そして旧ヤビツ峠は現在のヤビツ峠へと移りました。もうひとつ、ヤビツ峠に通じる登山道、柏木林道があります。

これは蓑毛の柏木米吉、幹太（前の秦野市長の柏木幹雄氏の祖父と父親）が私財を投げ打って開発した登山道で、ヤビツ峠への近道です。これは昭和七年に完成しました。私は叔父に連れられてこの登山道を何回も歩きましたが、小学生の頃まではこの林道に木馬道（キンマミチ・伐採した木材を木の櫓で運ぶ櫓道）の残骸が所々に残っていました。丹沢に木馬道があったことを知っている人はもう殆ど居ません。丹沢をこよなく愛した奥野幸道さんの「丹沢今昔」という本に、七沢（広沢寺）に木馬道があったことが記載されています（有隣堂平成十六年七月三十日発行）。

そして現在は、新東名高速道路がよいよ開通の運びとなり、秦野インターができるということで、秦野市はヤビツ峠を観光の拠点にしようと企画しています。ここは大山や塔ノ岳に至る表尾根縦走の登山コースの拠点であり、かつ、サイクリストやトレイルランニングの人達の聖地でもあります。そしてここに「ヤビツ峠レストハウス」を建設して、本年三月二十八日にオープンしました。

秦野市の新たな観光拠点としての歴史の幕開けです。

ヒカリモを巡る旅

黄金の泉の発見

白笹稲荷神社 権禰宜 渡邊のぞみ

令和二年五月二十二日、秦野市役所環境共生課より一本の電話が入った。「白笹稲荷神社の池にヒカリモという珍しい縁起物が発生しています。光の加減で黄金色に輝きます。」

それはヒカリモという黄褐色藻類に属する藻で、小さな単細胞の生き物。鞭毛をもって水中を泳いでいるが、光

っているヒカリモは水に浮かんでいて疎水性(水をはじく)物質で囲まれ、短



関東三大稲荷 白笹稲荷神社



黄金に輝く白笹稲荷神社のヒカリモ

い柄で水面に立っている。この細胞は空気中ではレンズのように働き、光を効率的に収束、反射する。このとき葉緑体が決まって光の反対側に配置されているため、反射光は黄褐色の葉緑体を通して。その結果、効率的に黄褐色の反射光が生まれる。ただし光を反射するのは一方から光が差し込むとき、という条件がつく。

このありがたい発見をして下さったのは、秦野市環境共生課の調査員で、「くずはの家」の指導員・手塚真理さん。調査の一環で神社の駐車場に降り立ち、ふと後ろを見ると、そこにヒカリモの池があった、とのこと。以前、職員研修旅行で千葉県のカリモ発生

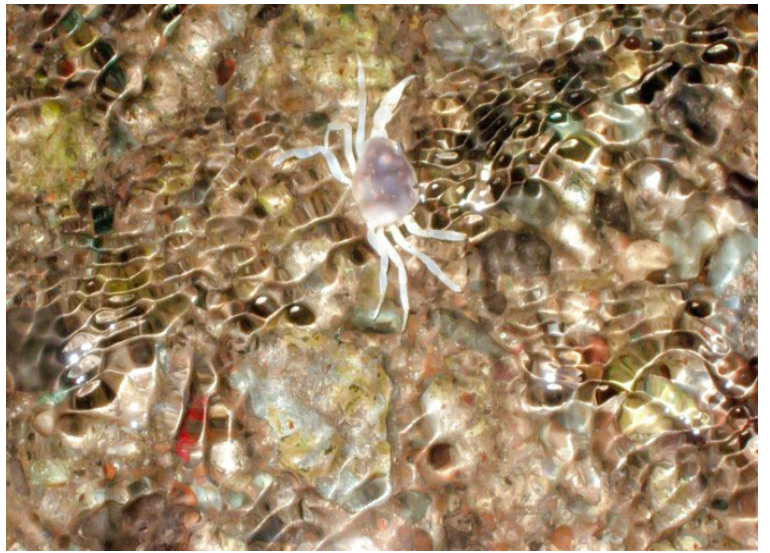
地を訪れていたため、すぐにヒカリモと気付いたという。今回の発見は神奈川県内三例目だそう。

実際、境内のヒカリモ発生地は昔の田んぼの一部だったようだ。その後、数十年前までニジマスを養殖する池だったとか。その池で泳いだという話を近所の方から聞いたことがある。その池の残存地が駐車場の隅に囲まれた形で残ったのである。水が絶えず湧いているので埋め立てられなかったのかもしれない。境内には、秦野市で「一貫田湧水」の碑が建てられている。最近まで境内の下は市水道の取水場でもあった。

俄然、ヒカリモに興味の湧いた私は、



白笹稲荷神社のヒカリモ案内看板



玉のように光る一貫田湧水

る自然豊かな遊水地で、除草剤等を使用せず、自然そのものの状態の保持がヒカリモの生育を促している、ということであった。

② 令和二年七月十七日(金)

横浜市瀬谷区市民の森周辺

横浜市の市民の森に二〇一七年にヒカリモが発見された地を訪ねた。そこは和泉川の源流であり豊かな水を生む湧水池で、そのままの自然が息づいている場所であった。当日、ヒカリモの確認はできなかったが、清らかな湧水を含む原生林的な要素を持つ森が、人間の文明が淘汰したものの「ざる」の目をすり抜けたものたちの居場所であることから、私たちは何を大切にすべきか、どういう方向に向かうべきかを改めて考えさせられた。

③ 令和二年八月十七日(月)と八月十八日(火)

千葉県館山市沼

約一キロにわたって点在する戦時中の防空壕に水がたまり、そこにヒカリモが生息している。一番手前の防空壕が最も広く、外は入口が二つあるが中はつながった空間で、奥の方に一箇所発生しており、入口の足下の湿った土は黄色く染まり、ぬかるみにも藻が生息していることがわかった。この穴に



防空壕の中に輝くヒカリモ (館山市沼)

はコウモリが棲んでいた。点在する穴の一つに水面の半分をヒカリモが覆い、見事な輝きを見ることができた。続く他の穴にはヒカリモは見られなかった。人の手による防空壕に天然のヒカリモが、いつ、どのように生息するようになったのか。緑色の葉緑素を持たないヒカリモの発生は、環境への適合を目的とした突然変異によるものか。生物学に無知の素人が興味を抱き、ヒカリモの発祥にまで思いを巡らすロマンとミステリーの旅となった。

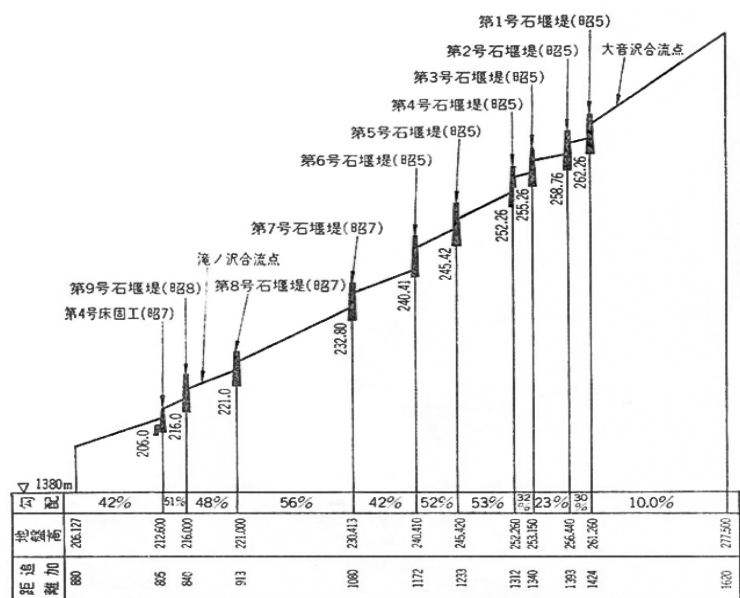
※白笹稲荷神社のヒカリモの見ごろは、例年五月末から七月です。

中村 貢

水無川に限らず丹沢山地には、関東大震災後の九月十五日の降雨により発生した土石流により荒廃した山間部の流路整備のため、同時期に国直轄事業として多くの堰堤が築造されました。これらの堰堤の築造にあたって先頭に立って尽力されたのが、砂防の神様と呼ばれている赤木正雄博士です。



堤長 189 m の水無川戸川堰堤



山裾を流れる葛葉川



葛葉川の石積み堰堤

参考資料
『砂防工事』 赤木正雄著

禅の歴史と精神(第一回)

愚閑道場 愚閑勝裕 (瀬戸川勝裕)

第一 はじめに

一 禅の意義と精神

禅は今から千二百年ほど前に中国で漢民族の間で完成し、その始まりはそれより更に三百年ほど前のことであった。禅は元々大乘仏教の思想で出来上がったもので、その思想の根源はインドであることは言うまでもない。すなわち、禅は大乘經典に所依している。禅は禅として中国で別途の発展を遂げた。禅という字は梵語から来て、「ディヤーナ」(清慮)の音訳「禪那」の略である。心を凝らして寂靜をまとめるという觀法がインド式の禪那である。中国ではその方面よりも我々の行動そのものの上に禅を働かせようというもので、インドの靜態性を離れて動態的方向をとるようになった。しかしそれだからといって禅定面を忘れた訳ではない。菩提達磨が六世紀のはじめころ梁にきて、それから二百年ほど後、慧能が唐代に出現するまでは、禅は、まだ本来の性格を十分に発露させなかった。達磨から慧能まで五、六代は、守一、看淨、看心などといったことが説かれ

又実修させられていた。慧能となつて定慧不二(じょうえふに)が説かれ見性經驗が重んじられて中国禅の基礎が確立した。見性經驗では、知と行とが一つであるので禅は自ら動靜両面をそなえてくるようになった。

禅は元来、經驗つまり日常生活を離れないところにあるので、禅思想は、やがて禅行為であり、禅行為はやがて禅思想である。これは人間の經驗は一面行為で、一面、思想だからである。禅ではその思想を言うときは其の行為を言っていることになる。釈迦牟尼世尊(ブツダ)は、「不立文字、教外別伝」をが口にした言葉で、「法」というものは文字言句に頼るのではなく師匠から弟子へ、心から心へ以心伝心で伝えるものであるという意味である。つまり法というものは何か、悟りとは何か、どうすれば悟りを得られるかは、頭で考えるより実践つまり坐禅をすることで得ることができるということである。

「直指人心、見性成仏」でこれは達磨大師の言葉で、「月を見る指ではなく、直接自分の本性を見極め、自己を明らかにすること、しかし誰にも仏性があるということに気がつくこと」である。この四句が禅の最大の精神である。坐禅は姿勢を正し、只坐り続けること、

これは老若男女、賢者、愚者、年齢を問わず誰でもできることである。禅という字は衣偏に単と書くことから読み取れる。禅は人間の本性は単純であることを教えているのである。この単純さが世界でZENが人気を呼んでいるものと思う。

二 禅の誕生

いわゆる禅が誕生したのは中国の南北朝時代といわれている。六世紀初頭に菩提達磨大師がインドから中国に渡り、初めて禅を伝えたといわれている。達磨大師は、釈迦牟尼世尊(ブツダ)から数えて二十八代目の後継者「法嗣」である。達磨大師は、二十七代般若多羅尊者から法を嗣ぎました。達磨大師が中国へ渡りインド(西天)での法嗣が達磨大師が最後となり達磨大師までの二十八人を「西天二十八祖」という。中国禅者は、釈尊から菩提達磨へと連なる禅の精神に基づく新たな伝灯(系譜・伝承)を作り上げてきた。先に述べた禅の精神、「不立文字、教外別伝」は、魔訶迦葉(まかしよう)をブツダの後継者に選んだ理由として有名な「蓮華微笑」が残されている。「ある日ブツダが靈鷲山で説法しておられたとき、一枚の花をとって居並ぶ弟子たちに示された。しかし、それが何を意

味するのか弟子たちにはさっぱりわからず、誰も無言のままでした。ただ、魔訶迦葉一人、彼だけがニツコリと微笑しました。その瞬間、ブツダは魔訶迦葉を後継者にすることに決めたという。ブツダの言葉は「私には正しく法を見る目があり（正法眼蔵）、涅槃へ導く心がある（涅槃妙心）。それは形があるようで形がない（実相無相）不思議な教え（微妙の法門）です。文字や言葉で表し切れず（不立文字）これまで説いてきた教えとは違う世界である（教外別伝）。これを魔訶迦葉が微笑した瞬間、言葉を交わすことなく心が通じたのでした。これから「以心伝心」ということが生まれ「不立文字、教外別伝」が禅の精神として伝えられるようになった。

三 達磨大師と武帝の問答

達磨大師はおそらく五世紀前半に南インドに生まれ、般若多羅尊者を師として仏法を学び、受け嗣ぎました。法を嗣ぐことを「師資相承」と言う。師資相承というのは「一器の水を一器に移す」ことだと言われ、法を嗣がせるということとは、一つの器から次の器へ全部の水をこぼさずに入れること。一滴遺さずすべてを伝えるということである。法を嗣ぐ者は、一部だけいた

くのではなく、すべて受け取らなければならぬ。そうしなければ法は薄くなってしまう、正しく伝わらないからです。法を嗣がせる者、それを嗣ぐ者は真剣勝負でなければならぬと思う。

達磨大師は、南北朝時代の中国に渡り南朝の梁の初代皇帝武帝と会見しました。武帝は、寺を建立し、写経し法衣を着て執務するなど仏教の熱心な庇護者でした。武帝は達磨大師に尋ねました。「私は即位して以来多くの寺を建立し、写経を支援し、僧の保護をしてきた。どんな功德があるか」。達磨大師は「無功德」（功德などない）。武帝曰く、「如何なるか。これ聖諦第一義」（仏法の根本の教えは何か）。達磨大師「廓然無聖」（尊いものなど何もない。空である）。武帝「朕に対する者は誰ぞ」（自分の前に立っているあなたは何者なのか）。達磨大師「不識」（識らず）。達磨大師は、武帝は仏教の意義を識っていないとその場を立ち、魏の嵩山の少林寺に向かい、そこで九年間壁に向かつて坐禅ばかりしていたということです。面壁九年と呼ばれています。九年後、神光（かみこう）という人物が現れ、夜、雪の中、坐禅中の大師に弟子をと懇願しますが大師は一向に受け入れてくれないため臂を切って入門の決意を

示したのです。有名な「慧可断臂（えかだんぴ）」の故事です。神光の決意に促された大師は入門を許可したのです。その後の禅問答も禅の精神を表しています。神光「弟子は未だ安からず。乞う師安心（あんじん）せしめよ。（私の心は収まるところにおさまっていません。落ち着かないのです）。大師「心を将（も）ち来たれ。汝がために安んぜん」（ではその心を出してみよ。私が安心させてあげよう。）。神光「心を見（もと）むるに了（つい）に不可得（ふかとく）なり」（自分の心はどこにあるのだろうか出すことはできません。大師「汝が為に安心し竟（おわ）んぬ」（さあ、安心させ終わったぞ。）。つまり、苦しむ心や悲しむ心、喜ぶ心は状況によつて現れるだけで、本来そのような心の実体はないのです。神光はその後「慧可（えか）」という名前を与えられた大師の弟子となり、修行を重ねついに達磨大師の法を嗣いで禅宗の代二祖、太祖慧可が誕生したのです。大師の教えは先に述べた「直指人心、見性成仏」つまり人の心を直につかみとり、仏性そのものになりきれば誰でも悟りを得られるという禅の根本の思想です。達磨大師の教えは本来ブツダが伝えた教えなのです。（続く）

秦野歴史おこしの会の特定非

営利法人(NPO)化について

副理事長 瀬戸川 勝裕

一 任意団体から特定非営利法人(NPO法人)へ

秦野歴史おこしの会は、平成六年に設立され、機関紙『善哉』の発行、講演会、市内外の文化財の視察研修、文化財の補修等に対する支援等々の活動を行い、文化財を通じて秦野のまちづくりに寄与してきました。また、平成三十一年には念願の当会のホームページを開設・運用しているところです。令和三年四月一日現在、会員総数は百名を超えています。

このように任意団体としての活動をしてきましたが、当会の活動及び会計状況等を公開し、会の透明化を図り、より多くの市民の理解と協力を得て、文化財を通じ秦野のまちづくりに更に寄与するため特定非営利法人(NPO)化を目指しているところです。その実現のため、いわゆるNPO法人とはどのような法人であるかを理解することが必要ですので、説明させていただきます。

ます。

二 NPOとは

Q①、NPOとは

NPOとは、Non-Profit Organizationの頭文字をとった言葉であり、日本語では、「非営利組織」や「民間非営利団体」と訳されています。株式会社など営利を目的とする組織とは異なり、営利を目的としない組織のことを言います。

Q②、営利を目的としないとは

営利を目的としないとは、活動によって得た利益は構成員で分配しないということで、収益があった時は、事業費、人件費、交通費等の経費に充て、更に余剰金が生じた時は次年度の事業に使います。会員に分配することではできません。

Q③、NPOとNPO法人の違いは

「NPO」とは、非営利組織全般を指すのに対し、「NPO法人」は、特定非営利活動促進法に基づいて設立された法人のことを指します。

Q④、NPO法人とは

NPO法人とは、NPO法(特定非営利活動促進法)の定めた要件によって設立された不特定多数のものの利益のために活動する団体のことで、法務局の登記をもって成立し、NPO法人

を設立するためには、その団体がNPO法の要件を満たしているかどうかを確認する都道府県や政令都市の認証が必要です。

Q⑤、「不特定かつ多数」とは

利益を受ける人(受益者)が特定されていないことを意味します。例えば、〇〇自治会は、自治会費を払った〇〇会員のために活動する団体であり、受益者は自治会員で特定されており、NPO法人にはなれません。同様に、同窓会、同好会も受益者が限定されていますので、NPO法人になることはできません。

Q⑥、NPO法人化のメリットは

法人化することの最大のメリットは、団体に「法人格」が付与されることです。つまり、団体が契約の主体となることが可能となります。その反面義務も生じます。当然のことですが、団体の活動は定款で定められた目的の範囲内でなければ事業を行うことができません。また、活動や営業形態についても民法などの一般法の規定に従うほか、活動報告や情報公開なども義務化されます。

Q⑦、特定非営利活動とはなんですか
特定非営利活動とは、NPO法で規定された十九種類の活動を指します。

例えば社会教育の推進を図る活動、まちづくりの推進を図る活動、子供の健全育成を図る活動、環境の保全を図る活動等々非常に広範囲の活動を網羅しています。

Q⑧、NPO法人になるためには、活動実績は必要ですか

NPO法人設立の申請には、活動実績は必要ではありません。申請書類に2年分の事業計画書及び活動予算書が必要であり、この計画、予算について書面審査が行われます。

Q⑨、NPO法人には税金がかかりますか

NPO法人は課税対象の法人です。税法上の収益事業を行わないときは、法人税等は課税されません。

★当会は特定非営利活動のどれに該当するか

「秦野歴史おこしの会」を特定非営利活動法人として申請する場合、法に定められている十九種類のうち、これまでの秦野歴史おこしの会の活動から鑑み、「まちづくりの推進を図る活動」が適当と考えられます。その事業としては、第一、文化財に関する支援事業、第二、市民に向けた教育事業、第三、市民と文化財をつなぐ広報啓発事業の三事業を柱と考えています。

以上の観点から、当会のNPO法人化を進めることが必要と考え、現在、その方針を示すべく努力しているところです。会員みなさまの御理解と御協力を切に願います。

◆新入会員です よろしく

北地区 安部 知佐子

北地区 柏木 秀治

東地区 伊藤 崇博

大根地区 高塚 紀生

◆臨時総会のお知らせ◆

とき

令和三年九月四日（土）

午後一時～

ところ

本町公民館多目的ホール

議題

一 秦野歴史おこしの会のNPO法人化を進めることについて

二 その他

◆講演会のお知らせ◆

※臨時総会終了後

演題 「柳川村与兵衛と漆あきない

——秦野地域と漆——

講師 桐生海正先生

県立足柄高校教諭



令和2年11月1日にリニューアルオープンした「はだの歴史博物館」に、当会からパンフレットスタンドを寄贈しました。

◆表紙の題字

「善哉（よいか・よきかな）」

揮毫 蓑毛山寶蓮寺

三十三世住職 東島光明師

『寶蓮寺真名縁起』によれば、聖武天皇の命を受けた行基と良弁が、伊勢の皇大神宮に赴き大仏造立の願いが叶った時、歓喜して舞い、歌い、言ったことばが「善哉、善哉、時哉、時哉」である。・会報第二号から要約

★「善哉」への投稿依頼

旅先で出会った文化財の思い出、独自の研究成果などがありましたら、お気軽にご投稿ください。

事務局

秦野市羽根七〇七 小泉 孝 宅

電話 〇四六三―七五―〇〇六七